

◎司会進行 地方創生担当課長（会長決定まで）

1 開会

○開会に当たり、市を代表して副市長から挨拶
改めまして、おはようございます。

本来でございますと、皆様方を委嘱いたしました北斗市長がこの場においてご挨拶をさせていただくところではありますが、他の公務と重なり、本日出席することがかなわなくなっております。

市長の代理として、一言ご挨拶をさせていただきます。

委員の皆様方におかれまして、平素より北斗市政の推進にあたり、ご支援、ご協力いただき、心より感謝とお礼を申し上げたいと思っております。

北斗市総合戦略検討・推進会議は、北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、さらには戦略の推進に向けた検証を行うため、平成27年7月に設置し、以来、委員の皆様方には、大変貴重なご意見、ご提案を頂戴しまして、誠にありがとうございます。

重ねてお礼を申し上げる次第でございます。

北海道新幹線の開業により、新函館北斗駅周辺はもとより、きじひき高原をはじめとする市内観光施設には、たくさんの観光客にお越しいただいております。

開業前と比べ市内の人の流れは大きく変化しておりますが、一方で、開業から3年目を迎え、JR北海道が発表した北海道新幹線の利用状況は、開業直後に比べ減少傾向にあります。

こうした状況の中、北海道新幹線の効果を最大限に引き出し、本市の恵まれた地域資源や魅力と結び付けて、経済効果を各産業に波及させていくこと、地域の発展につなげていくことは、私たち行政が、関係機関や団体と連携しながら、今なすべき最大の責務であり、至上命題であると考えております。

また、この総合戦略の計画期間は、平成31年度までとなっており、来年度は総仕上げの年となりますが、すでに国においては、平成32年度以降の次期5か年の総合戦略に向けた動きが出始めております。

北斗市としましても、この総合戦略に基づく施策の進捗状況をしっかりと評価検証した上で、次の総合戦略の策定に向けたビジョンを描いていかなければならないものと思っております。

このような視点から、本市の総合戦略を着実に推進するため、市役所内部におきましても、総合戦略に掲げている施策の達成度やKPIの進捗状況を検証し、この後、担当の方から説明いたしますが、現時点における施策の評価をまとめたところでございます。

行政内部では、一般的であると捉えられたり、達成していると考えられることであっても、市民目線、市民感覚的には、不十分と考えられるものもあろうかと存じますので、こうした外部委員の皆様方による検証は、必要不可欠なものであると考えております。

委員の皆様方におかれましては、総合戦略を着実に推進するため、本日の会議におきましても、これまでと同様、忌憚のないご意見やご提案を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

○配付資料について説明

○委嘱状の机上配付について説明

2 委員の紹介

○資料に従い、前回から変更のあった委員（4名）を紹介

3 会長及び副会長の選出

○事務局の提案とおり、昨年同様、会長、副会長を指名

○会長より、会長就任挨拶

この会議が、北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、さらには戦略の推進に向けた検証を行うために、平成27年の夏に設置され、以来、会長として参画させていただいております。

戦略の策定当時は、北海道新幹線の開業に向けた大きな期待が高まっている時期でありまして、その効果を最大限に発揮することを目標に検討して参りました。

早いもので、来年、5か年の最終年度ということになりまして、本日の会議においては、総合戦略に掲げている各施策の実施状況のほか、最終年度を迎えるにあたっての評価・検討を行うわけでありまして。

年度的には、これが最終チェックということになろうかと思っております。

新幹線の開業から約3年が経過し、どのような状況変化があつて、皆様が肌で感じている部分あると思っておりますが、その変化については、今回特に数値でKPIという値がございまして、それで確認できることになっております。

これは、大変興味深いものであると思っております。

配付いただいております資料をご覧いただいているかと思っておりますけれども、非常にボリュームがございまして、事前に拝見したのですけれども、ゆうに2時間はかかるということかと思っておりますが、委員の皆様のご協力を賜りながら、円滑な議事の進行に努めて参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひいたします。

◎司会進行 会長（会議終了まで）

4 議事

(1) 北斗市の人口動態の推移について

○地方創生担当課長から資料3（当日配付）に従って説明を行い、質疑を受けた。

質疑なし

(2) 北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○地方創生担当課長から資料1, 2に従い、基本目標ごとに数値目標、施策ごとのKPI、主な事業の実施状況、施策の評価について説明を行い、質疑を受けた。

・基本目標 1 について

発言者	発言内容
委員	新函館北斗駅前に進出した企業について、経営状況の確認はしているか。
経済部長	経営状況の確認行為はしていない。
委員	知り合いが出店しているが、状況が良くない、かなり厳しい状態と聞いている。 撤退などということもあるかと思うので、把握しておくべきではないか。
経済部長	観光交流センター別館のほっくるのテナントについては、指定管理者である観光協会に協力いただき、売り上げについて報告いただいているが、赤字かなのか黒字なのかという評価は出来ない状態である。 お客も増えて、売り上げも伸びて活性化されるのが理想ではあるが、その方策として、事業者側として売り方、品揃えといった工夫をしていると思うっており、行政側として何が出来るのかということについては、ほっくるの会と協議を重ねながら、できることから進めていく話し合いをしている。

※施策の評価についても了承。

・基本目標 2 について

発言者	発言内容
委員	福祉事業に携わっている人からは、世間一般に好景気であり、福祉系の学校を卒業した学生が福祉関係の仕事に就かないという話を聞く。 厳しい、きつい仕事だということから、一般事務のような仕事に流れてしまう。 介護福祉職の斡旋を推し進めていきたいということであれば、給与を上げるとか環境を整備するといったメリットがなければ、集まりづらいのだろうと思う。 また、胃ろう者を多く入れるなどといった、特徴のある施設を作り上げるということをしなければ、特に介護福祉士という職業の斡旋については、中々難しいのではないか。
地方創生担当課長	移住に関する取り組みとして、昨年度から首都圏での移住セミナーなどを開催などを行ってきているが、移住を検討される方は、移住後の仕事についてはどういったものがあるかという相談が多くある。 それを受けて、今年度実施したのが、市内の老人保健施設を運営している社会福祉法人と一緒に東京に出向き、北斗市のPRや移住支援制度をお知らせし、その後、仕事ということで市内施設の職場環境や処遇、今後の採用に向けてのスケジュールなどを説明している。 セミナーの参加者は20名程度おり、そのうち1名が9月に北海道が実施する介護福祉職に関する、移住も併せたモニターツアーに申し込みしている。 今後、各施設で来年度の職員採用に関する動きがあった時、セミナーに参加した方の申し込みがあることを期待している。
民生部長	景気が良くなり、若い人たちが介護職に就かないという現状について、国も対策として、処遇待遇加算という制度を設け、介護職の処遇を改善していこうという動きになっている。 また、消費税改正に伴った、介護職の処遇アップということも検討されている。
会長	資料1、33ページの施策(3)「交流人口の拡大」の評価のうち、文化合宿の制度は未整備ということについて、今後の考えはどのようになっているか。

総務部長	<p>総合戦略策定の際、委員より市内小中学生の吹奏楽が非常に高いレベルにあって、そういう特徴を生かした大会や合宿という意見があり、総合戦略に盛り込んだところである。</p> <p>市内には、吹奏楽の一般団体や小中学校の加盟する、吹奏楽の協議会が立ち上がっており、具体的な活動として昨年度から新函館北斗駅前でのオータムコンサートを実施している。</p> <p>合宿に向けて、協議会と意見交換をした結果、現在の協議会の活動としては合宿への興味はあるものの、まずは吹奏楽というものをアピールしながら、駅前でのコンサートに力を注ぎたいという考えがあった。</p> <p>協議会との意見交換を重ねて、何とか形を作れるよう、進めていきたい。</p>
委員	スポーツ合宿に来ている人のうち、リピーターはどの程度いるのか。
経済部長	昨年度4,484人、54団体の利用があり、そのうち24団体が初めての利用、30団体がリピーターとなっている。
委員	北斗市を訪れる観光客は、リピーターよりも初めての来る観光客が多いのか。
経済部長	<p>きちんとした把握は出来ていないが、おそらくリピーターよりも初めての方が多いいのではというイメージを持っている。</p> <p>新函館北斗駅前のホテルの利用者のうち、3割以上が外国人という状況もある。</p>

※施策の評価についても了承。

・基本目標3について

発言者	発言内容
会長	資料1、42ページの施策(2)「子どもの力を引き出す教育環境づくり」の評価中、「児童・生徒数の減少を抑制されている」については、「減少が」という表現の方が良いのではないかと。
地方創生担当課長	「減少が抑制されている」に変更したい。

※施策の評価については、文言の修正をした上で了承。

・基本計画4について

発言者	発言内容
会長	今後導入される公会計制度がどのようなものか、お知らせ願いたい。
財政課長	民間企業の会計制度にある貸借対照表や損益計算書といった企業会計に近い形で、市で保有する財産も含めて管理していくというものである。
委員	<p>茂辺地地区創生会議の北斗軒について、一度行ったらもう行かないという声を聞いた。地元の人あまり利用していないのではないだろうか。これでは将来性がないのではないかと思う。事業を行う前に、試食を実施したりすべきだったのではないだろうか。</p> <p>石別地区のトラピスト修道院では、2年前までローマへの道というイベントが行われ、大変人気があった。もし出来るのであれば、復活できないのだろうか。</p>

総務部長	<p>市の人口減少問題に取り組む対策の1つとして、茂辺地・石別地区の地域活性化に取り組んでいく必要があるということで、地域の方々が主体的に問題意識を持って、地域の良さをアピールする取り組みとして、地域の皆さんと相談して取り組んできた。</p> <p>茂辺地地区では、旧茂辺地中学校グラウンドを中心に取り組んできている1つとして、食堂を運営している。</p> <p>以前運営していた際も営業再開するにあたっては、試食も行い、また営業開始後も実際に職員もお店を利用している。</p> <p>お話のあった、評判の悪い味という風には考えていないが、一方で雑誌に扱われるような味を求めるといったことについては地域も含めて求めていない。</p> <p>今は、地域食堂というイメージで運営しているので、期待した味ではないかもしれないが、恥ずかしくない味だと思っている。</p>
経済部長	<p>トラピスト修道院のライトアップについては一度終了したものの、クリスマスシーズンのライトアップというものを昨年度から実施し、今年度も実施する予定となっている。</p> <p>広報や新聞も利用し周知をしているが、引き続き周知方法については考えていかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>資料1、53ページの都市交流について、記載されている事業は観光プロモーションがメインかと思うが、施策の趣旨として、暮らしている方の生活機能の維持、拡充という意味でいうと、どういう部分に関係してくるのか。</p>
総務部長	<p>人口減少傾向にある中で、地域の暮らしを維持していくためには町内会活動といったものがまちづくりの中で重要なものになってくるが、そのような中でも人材不足、地域の中にも課題がある。</p> <p>移住なども含めて、まずは北斗市にお越しいただくということであれば、こちらに目を向けていただくということが入り口になると考えている。</p> <p>そのようなつながりで、施策(2)に「都市交流」をいうものを掲げている。</p> <p>ただし、具体的な事業としては、観光イベント的なもの、まずは北斗市を知っていただくということが最初であると考えていることから、そういう切り口の事業がここに掲載している。</p>

※施策の評価についても了承。

・全体を通じて

発言者	発言内容
会長	<p>町内会活動への支援の件で、直近でも大災害があった際に、最終的に重要なセーフティネット、地域での力として発揮され、様々な部分で注目がされている。</p> <p>もう少し工夫、取り組みについての力強さが欲しいのかと思うが、これに関してはどのように考えているか。</p>
市民部長	<p>苫小牧市や室蘭市へ出向き、町内会加入の促進に向けた取り組みを研修をしている。</p> <p>両市とも、町内会長に加入に向けた説明に活用するマニュアルといったものを作成、配付し、未加入世帯への訪問を実施していることから、北斗市でも平成30年度はこの取り組みを行いたい。</p> <p>また、宅建協会との協定を締結し、少しでも加入率を増加させたい。</p>

委員	北斗軒について、定着した利用者を増やすということを考えるのであれば、例えば市で匠登録制度というものがあつたと思うので、そこに登録されている料理人に検証していただくこともできるのではないかと。 また、SNSで発信してもらえそうな目玉商品を作るための助言をしてもらえるかもしれないので、そういった人材の活用も出来るのではないかと。
総務部長	匠の登録制度は教育委員会の事業として現在もある。 北斗軒も商売であるので、お客に来てもらい、収支がいい状況にいくのは大変好ましいことではあるが、食堂を開くにあたっての地域の背景としては、地域に寿司屋の他、食堂がない、高齢化が進んでいて、身近に食べにいける場所があればよいという思いから開設したものである。 まずは地域運営、母ちゃん食堂的なイメージを作りながら、恥ずかしくない程度のレベルでスタートを切ったところである。
会長	資料1、45ページのICT教育実施の環境整備について、国策として初等教育等でのプログラミング教育というものが必修化される方向になっており、資料上にはそういった言及がないのだが、実施状況はどのようになっているか。
教育次長	プログラミング教育については、民間からの問い合わせも入っており、各学校において事前の講習会等を行っている。 来年度に全部の学校に配置になることから、今後さらに進めていくべきものと考えている。
委員	次の戦略策定に向けての話になるが、基本目標にある「住み続けたい」ということは、「働き続けたい」ということにもなると思う。 北斗市内には、工業団地が2つあり、それぞれに町内会的な親睦会というものがつくられている。 そのような団体の活動を活性化する市からの援助があれば、それぞれのコミュニティで働き続けたいという活動が出来るのではないかと考えている。
総務部長	次の戦略策定に向けた貴重のご意見を頂戴した。 ご指摘のように、住み続けたいという中で、働き続けたいということを含めて、地域をどのようにつくっていくのかということが重要であり、企業・団体も住民の中に含まれるので、コミュニティをどのように維持していくかという部分を含めて検討していきたい。

(3)その他

本日の議事はここまでとなるが、その他ということで全体をとおして何かあればご意見を伺いたい。

その他事務局からの連絡事項があればお願いします。

地方創生担当課長より、平成32年度以降の次期5か年の総合戦略策定に向けて、今後の国の動向によっては、その内容を踏まえ、今年度中、来年3月までに第2回目の会議を開催させていただくこと、また会議の概要は市のホームページなどで公開することについて説明。

5 閉会

本日の会議を終了する。